

目的) 近年登校拒否で長期欠席する児童が急速に増えてきた。学校に行きたくない、行きたいけれども行けない、という登校拒否・不登校の子供を対象にその生活を調査した。休んでいる時の家庭での生活、および食生活について報告する。

方法) 都内の某小学校で前年度一年間50日以上休んだ児童7名 (全員男子) 2年生-1人, 3年生-2人, 4年生-1人, 5年生-2人, 6年生-1人, 1987年4月から1988年3月の期間休んだ児童。調査時期は1988年4月から8月聞き取り調査、面接調査、献立記入調査を実施した。

結果) きっかけと思われるもの——忘れ物、いじめ、身体的理由(体格が小さい、アトピー性皮膚炎など) 朝寝坊、友達とのけんか、行事に参加しなかったこと、遊べないためなど、対人関係や親子関係がいくつか重なった場合。

身体的症状の訴え——だるい、下痢、腹痛、吐き気、筋肉痛、腰痛
睡眠時間——時間は長く、遅寝、遅起きの傾向がある。よく夢をみて夜中に起きてしまい、その後寝ることができずに朝まで起きてしまう。ぐっすり寝た気分は無い。
食生活は——過食、拒食の傾向はないが喉が乾きやすく、そのためジュース類の摂取が多くなり菓子などの量も普段より多くなる。自分の好みのものを要求して偏食が強くなった。水分の摂取量は多くなった。体重の減少はみられないが同じか増加の傾向にある
楽しみは——のんびりすること、テレビ、マンガ、アニメ、を見ること。本をよむ、ネコやイヌとあそぶ、菓子を食べる、植物に水をやる。独り遊びを好み運動、活動量は減少し生活リズムは規則的な場合と不規則的な場合が見られる。